

## 平成14～16年度 教育研究業績書

奈良大学在職期間	1979年	～	現在	氏名 森田 憲司
最終学歴	1979年3月京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得満期退学			
取得学位	文学修士			
所属学会	東洋史研究会、東方学会、内陸アジア史学会、宋代史研究会、日本道教学会（評議員）			
専門分野	東洋史（中国近世社会文化史）			
研究課題	石刻史料を用いての宋元社会文化史の研究			
【研究上の特記事項】				
<p>平成13～16年度科学研究費特定領域研究A「東アジアの出版文化」（領域代表磯部彰東北大学教授）計画研究：中国近世の知識人社会と出版文化 とくに科挙関係資料と類書を中心に（研究代表者） 平成16～18年度科学研究費基盤研究B「13、14世紀東アジア諸言語史料の総合的研究 元朝史科学の構築のために」研究代表者。同研究のNEWSLETTER『13、14世紀東アジア史料通信』の編集（16年度3回発行）。</p>				
【教育上の特記事項】				
【社会的活動】（主要なもの）				
日本歴史学協会委員（学会選出、2003年度から）				
【学内活動】（学内職歴を含む・主要なもの）				
<p>全学人事委員会委員長（2004）、図書館展示室企画・案内執筆：「四庫全書とデータベース」（2002年7月～10月）、「台湾の不思議な雑誌『漢聲』のお正月」（2002年12月～2003年2月）「大和の桜 吉野を中心に」（2003年3月）、「紀伊山地の霊場と参詣道 ～吉野大峯を中心に」（2004年12月）</p>				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
『元代知識人と地域社会』	単	2004年2月	汲古書院	これまでの論考のうち、元朝時代の知識人と地域社会にかかわるものを再編集し、1つの著作にまとめたもの
『社会史資料としての出版』	単	2005年3月	平成13～16年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「東アジア出版文化の研究」計画研究「中国近世の知識人社会と出版文化」とくに科挙関係資料と類書を中心に」研究成果報告	ある文献を出版するということ自体の歴史資料としての意味、これまであまり注目されてこなかった「一枚の資料的可能性、などについて書いたものを再編したもの
『宋元時代の文化』	単	2005年3月	奈良大学通信教育部東洋史特殊講義テキスト	通信教育部東洋史特殊講義テキストとして、五代・宋・元の社会と文化について、筆者の視点から概観したもの

( 学術論文 )				
王朝交代と出版 - 和刻本事林広記 から見たモンゴル 支配下中国の出版	単	2002年12月	『奈良史学』20号	和刻本事林広記に多く残される宋代的記述から、宋元王朝交代が出版に与えた「影響」を考えた。
明治の長城紀行	単	2003年3月	『アジア遊学』49	明治時代に書かれた長城紀行を解説紹介したもの
日用類書と挙業書をめぐる研究状況	単	2003年4月	『ナオ・デ・ラ・チーナ』4	日用類書と挙業書について、最近の研究状況を紹介したもの
文献と実物資料 『故紙堆』(北京 図書館出版社 二 〇〇三)の紹介を 通して	単	2003年12月	『奈良史学』21	2003年に出版された『故紙堆』をてがかりに、「一枚刷」、「民間印刷物」の資料的利用の可能性について考えた
中国学・韓国学の 十年後 - 歴史(中 国中世~近世) デジタル化の彼方 にあるものは?	単	2004年3月	『月刊しにか』2004年3月号	史料のデジタル化、中国ソ連の改革開放、などを手がかりに、中国史学の将来について、悲観的に論じた
『燕塵』の日々 - 明治四十年代の北京	単	2004年8月	『彷彿月刊』2004年8月号	明治40年代に北京で刊行の邦文誌「燕塵」の記事を紹介し、当時の北京の日本人社会が、人々が日常生活を普通に送る場とすでになっていたことを紹介した。
元代類書における 『文公家禮』の引用 至元八年婚姻 礼制所引を中心に	単	2004年12月	『奈良史学』22	「文公家礼」の事林廣記などの類書における引用を紹介し、そのテキストとしての性格について考えた。
( その他 )				
北京の地図を集める	単	2002年 6月	『アジア遊学』40	
上方講談を聞く、 読む16	単	2002年 6月	『笑m a g a』47	
古書研との二十五 年~「青空」を中心 に~	単	2002年 10月	『京古本や往来』96	
生き続けている 『かわら版』	単	2003年 5月	『北京かわら版復刻版』	
即売会とコーヒー - 赤尾照文堂主人 赤尾清昭さんを偲ぶ	単	2003年 10月	『京古本や往来』99	
史館	単	2004年 2月	『歴史学事典』第11巻・宗教と学問	
三十年経てば、人も雑誌も年をとる	単	2004年 2月	『京古本や往来』100	

一枚刷りへの関心	単	2004年 8月	『ナオ・デ・ラ・チーナ』 6	
近着石刻関係書所収元代石刻リスト (2003)	単	2004年 9月	『13、14世紀東アジア史料 通信』1	
北京石刻関係書2 種所収石刻細目	単	2004年 9月	『13、14世紀東アジア史料 通信』1	
中国の「申遺」 ブーム	単	2004年 10月	『奈良大学おもしろミニ講 座』4下	
平城京と「理想の 都」	単	2004年 12月	『 imagine 21 』10	
新刊紹介：愛宕元 訳注『遊城南記 / 訪古遊記』	単	2004年 12月	『13、14世紀東アジア史料 通信』2	
『北京文物精粹大 系・石刻巻』細目	単	2004年 3月	『13、14世紀東アジア史料 通信』3	
近着石刻関係書所 収元代石刻リスト 2	単	2004年 3月	『13、14世紀東アジア史料 通信』3	
雑誌連載 「中国 を読む、見る、集 める」 ( 89 - 124)	単	1993年3月から 連載(月1回)	北京トコトコ	